

2025 2

# ナイル

現代短歌ナイル

ナイルキャンパス／五代目神田伯梅

\*\*\*

美貴子ワールド／松本美貴子  
偶然の糸を遊ぶ【8】

\*\*\*

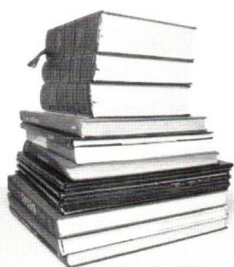
12月号作品批評／宮本史一（心の花）

\*\*\*

涼さんのにぎわいホビ～／橋本涼

\*\*\*

高校生短歌特集【5】



# NILE CAMPUS

308

伯梅閑話 ― 縁のある土地 ―

小村井敏子（五代目神田伯梅）

家の片づけをしていたら、平成十五年の年賀状が出てきた。福久八重、千代夫人の妹と聞いている。金沢市寺町五丁目にお住まいだった。この方が金沢だったので、六代目神田伯龍のお中元お歳暮は、金沢の四十満谷本舗（しじまやほんぼ）の金城漬（野菜の金城味噌漬）だった。敏子の高校時代の友人が金沢に住んでいた、大学の茶道部のお茶の先生は、金沢にご自宅があったが、東京・神奈川にもお住まいがあり、敏子が鎌倉に着任したときには、学区内にお住まいだった。それでお茶を再開し、お茶名をいただく手前まで、表千家の茶道のお許しをいただくことができた。鎌倉に遠縁の親戚がいると聞いていた親戚は、学区内の郵便局だった。そもそも、伯龍が子供時代から好きだった鎌倉だ。

ナイルの甲村秀雄先生は、「地中海」。当時は、甲村発行の短歌誌のメンバーは「地中海」にも入っていた。「地中海」を甲村先生が離れたあとしばらく、敏子は、香川進先生が亡くなるまで、「地中海」にも入っていた。

六代目神田伯龍は、栃木県の湯西川温泉、本家伴久萬久（ほんけばんきゅうばんきゅう）旅館で頼まれて、通っていたことがあった。浅草から東武電車で向かう、日光の奥、交通不便で知られる平家落武者伝説の里だ。伯龍は、泊まればいいのに泊まらず、高座が終われば帰宅していた。高齢の妻が心配だったからと言っていたが、自分が炊いたご飯が食べたかったに違いないとにらんでいる。ご飯が大好きで、元日でもご飯を炊く人だ。餅は好きでなかったせいもあるかと思う。湯西川温泉に行きたいという人がいて、その萬久旅館に職員旅行で行ったことがある。そのときの代表取締役伴玉枝さんは、「地中海」の同人だった。伯龍の妻だということで歓待された。